



【巻頭言】 2016年年度大会を終えて



千葉県支部長 松井隆

平成28年度は7月18日に年次大会を開催し、現在、諸活動の取組みに入っているところです。

千葉県支部は、設置され4年目を迎えました。年次大会では、平成27年度の活動を振り返り、平成28年度に向けた活動計画についてご意見を賜りました。そして、次の三つのことについて述べております。

一つは、日本は、災害大国の様相を呈してきたことであります。阪神淡路大震災が発生したのは平成7年、東日本大震災は平成23年発生し早や5年半を過ぎましたが、今年4月には熊本地震が発生しました。また、東海地震と南海トラフ地震についてマグニチュード8級の地震がいつ起きてもおかしくないと言われている大震法制定について発表されています。

さらに、地震の他にも異常降雨による広島県の土砂災害に続いて、茨城県西部鬼怒川の河川氾濫において大きな被害が発生しており、口永良部島や御嶽山の火山噴火など、地震・異常降雨・大型台風・火山噴火など大災害が国民への脅威となってきております。

統括本部では、災害発生の都度、災害対策本部を設置されそれなりに対応されていますが、首都圏大地震を対象にした演習には千葉県支部が参加するなど、千葉市・船橋市・松戸市等地方自治体支援において住民レベルの対応について、予備的知見を増やし、防災演習など実践体験への取組みが進められており、最近の防災支援チームの活動に敬意を表します。

もう一点は、最近の経済情勢についてでございます。アベノミクスの成長を高めようと、日銀はマイナス金利を導入しましたが、イギリスがEUから離脱が確定し、金融市場の国際的不安要素が続いています。昨年今年と続いた大手企業の賃上げも、なかなか中小企業までは伝播せず、個人消費も低迷した状況にあります。

このような中であって、支部産学官連携チームや技術相談チーム、企業支援チームの企業支援への取組みに、千葉産業人クラブ等の協力によりアンケート調査や企業訪問を積極的に進めており、企業支援が一層進められることが望まれます。

最後の一つは、科学技術を標ぼうしていくわが国は、地域における科学技術振興に向けた人材育成が何より重要な施策であります。文部科学省では、これらの学校の指導体制の充実や学校と地域の連携・協働を一体的に推進し、創造性の育成による多様な個性が生かされる教育を推進するとしています。

科学技術・理科支援チームでは6月11日、12日きぼーるで開催された「青少年のための科学の祭典」では2つの高校生達に「メロディーの小箱」や「鉱石ラジオ」製作において子供達への指導を体験提供し、技術士会の重要な将来の科学者を育てる活動に向け、子供たちの夢の育成に努めています。このことは、理

科授業支援以来の長年学校に関係する活動を続けてきた結果であると大変喜ばしく思っております。

以上、支部における活動が、確実に技術士へのミッションを担って、千葉県支部の基本理念「技術士の技術力とチーム力で、産・学・官との交流・連携を強めて、地域の経済社会の発展並びに科学技術の向上に貢献する」を柱としての活動を進めて来た成果が現れてきつつあると考えます。

支部役員会では、毎回熱心な審議を行って、各委員会と活動推進チームでは、行動指針に基づく行動計画について、着実な展開を進められております。

平成 28 年には、さらに多くの会員に参加いただき活動を進めるように努力したいと考えております。どうか、会員の皆様には一層のご協力とご支援を賜りたくお願い申し上げます。Web 会報発刊にあたりご挨拶に代えさせていただきます。

(千葉県支部長 松井隆)

【新合格者紹介】昨年度の一次・二次試験合格者の自己紹介コーナーです (順不動)

【一次試験合格 松永 武久】



・技術の道に入るきっかけ

原理・原則は物事の動きに偽りがないので、原理・原則を正しく理解し、社会の為に活用したいという思いで入りました。

・技術士受験のきっかけ

後輩が技術士でして、その紹介を受けて志そうと思いました。技術士は一つの通過点ですが、今後も自己研鑽に励むきっかけを多く経験し、自分を高めていきたいです。

・試験合格後の抱負

今は化学で受験いたしますが、合格後は色々な分野の原理・原則を理解し社会が抱えている問題を解決していきたいです。

・現在の業務のやりがいと意気込み

弊社は千葉地区の製造プラント向けに解決技術(ソリューション技術)を提供しております。問題点の発掘、解決策の提案から工事、試運転まで一貫してやり遂げます。

みんなの笑顔の為に。これにやりがいを感じます。

どうぞ、宜しくお願いいたします。

なにかありましたら

いつでもどうぞ！

あなたの笑顔の

ために頑張ります。

【二次試験合格 電気・電子部門 池上 正一】



平成27年度電気電子部門二次試験に合格し、3月に技術士登録しました。現在は企業内技術士として発電所、変電所及び特高受配電設備の計画・設計・施工管理業務に従事しています。また、技術士を目指す人の為の企業内研修の講師として後進の教育も実施しています。

技術士受験のきっかけは、先輩・上司の進めや会社として資格取得に力を入

れ始めた事でした。また、国際的に通用する資格であることも資格取得を目指すきっかけになりました。

試験合格後、社外の方々と名刺交換をするたびにすぐに覚えていただけ、話のきっかけにもなり仕事もやりやすくなったと感じています。

これからも、技術士として自己研鑽を積み専門知識の向上に努め将来的には APEC エンジニアを目指そうと思います。

最後になりましたが、部会や支部での活動等でお世話になる時があると思いますのでその際は、よろしく願いいたします。

【二次試験合格 衛生工学部門 大倉 俊雄】



私は、事務所ビルや病院等の建築建物の冷暖房や給排水設備における、省エネや快適性を切り口とした技術提案営業を行っています。

受験の動機は、初めて会う顧客に対して、少しでも信頼度を上げたいと思ったことです。最近のデータねつ造や談合問題で建設業界への不信感が大きくなっていますが、今までの技術士の諸先輩の積上げた社会貢献の実績により、お付き合いする顧客からは「技術士の言うことなら信頼できる」と認めてもらえる状況にあります。

私は技術士になったことに社会的責任を自覚し、諸先輩のように社会貢献できるよう活躍したいと考えます。

【二次試験合格 総合技術監理 浜崎 豊】



はじめまして。今春、技術士二次試験の総合技術監理部門に合格し、千葉支部会に入会しました浜崎と申します。現在、製鉄メーカーに勤務し、企業内技術士として技術標準の作成、老朽設備の更新業務に携わっています。

<技術士受験の動機>

企業の仕事では、社会ニーズの変化が従事する分野に影響を与えることがあります。若い時は、何でも勉強だと思い、色々な分野のことを吸収してきました。良く言えば多方面のことができますが、別の見方をすると、同じ分野を続けることは稀となります。私は、このことを割り切っていましたが、勤務10年を経過した頃に、専門技術の分野が変わりそれに応じる自分が技術者として世の中にもどのように役立っているのか？と自問自答するようになりました。

そのような時期に、自社で解決できない技術課題に直面し、社外に協力を求めることがありました。その協力者が、偶然、機械部門の技術士だったのです。当時、課題の本質が視えず、自分の頭の中が混沌としていたことを、その技術士に理論整然と整理して貰いました。そして、自分には種々の経験を重ねてきたにもかかわらず世の中の困った人へ助ける専門技術が備わっていない、と痛感したのです。このようなことから機械部門の技術士資格を取得し、その後、視野を広げるために、総合技術監理部門を目指した次第です。

<技術士資格の活用>

私は、勤務25年の間、関東と関西の地方を数度転勤し、現在、君津市に住んでいます。平日は、会社と住居の往復に終始するため、地元とは仕事以外に縁がなく、地域交流の場が少ないことが常です。そして、転勤先に慣れ親しみ愛着が湧いた頃には、次のところへ移動となります。

私は、新たな土地に住み始めると、その地方での技術士の部会に参加するようになりました。なぜなら、地域交流のきっかけになるからです。業種や世代も様々なので話題が新鮮であり、さりながら技術への捉え方

に共通点があり、初対面であっても違和感がありません。また、先輩技術士との出会いから、自分の数十年先の将来像を考えるヒントが得られます。

このように、私は、技術士の部会を転勤先の生活の場のコミュニティとし、技術士資格を活用しています。きっと、全国の企業技術士(技術士を目指している人も含め)には、私のような転勤族がいると思うのです。そのような方にとって、地方の技術士の部会の参加は、有意義になると思います。ご都合つけば、是非、ご参加下さい。今後、コミュニティの一員として、自分が構成できることを抱負にしたいと思います。宜しくお願いします。

【二次試験合格 総合技術監理部門 西原浩一】



平成 27 年度の技術士二次試験で総合技術監理部門(以下、総監)に合格した西原と申します。

・総監受験のきっかけ

情報工学部門を目指していた時から、次は総監にチャレンジすることを決めていました。専門の技術だけではなく、マネジメントスキルを持ったエンジニアを目指したいと考えていたからです。

実際に総監を受験する (青本を学ぶ)ことで、普段の実務では「経済性管理」の QCD を中心に考えていることに気付きました。「人的資源管理」および「社会環境管理」については、あまり意識していなかったため、普段の実務でも考えるようになりました。

・今後の抱負

総監合格を Goal にするのではなく、次なるチャレンジとして、他部門(電気電子部門および経営工学部門)を取得したいと考えています。

【二次試験合格者 情報工学部門、総合技術監理部門 吉村豪康】



昨年度の技術士二次試験に合格し、今年の 3 月に技術士(情報工学部門、総合技術監理部門)になりました吉村豪康と申します。現在は NTT データ先端技術株式会社にて、サイバーセキュリティの仕事をしています。

・技術の道に入るきっかけ

小学生の頃に、親からパソコンを購入してもらい、雑誌を見ながらプログラミングを勉強し、ソフトウェアが画面内で自分の思い通りに動くことに感動したことがきっかけです。

・技術士受験のきっかけ

大学卒業当初は技術士という資格を知らず、対外的な自己のスキル評価のために、情報処理技術者試験等を受験していました。しかし、ある時、私の尊敬する先輩が技術士を取得しており、また技術士であるということに誇りを持っているという話を聞き、自分でも技術士という資格がどのようなものか調べ、技術士受験に興味を持った次第です。

・試験合格後の抱負

試験に合格したことで、尊敬できる諸先輩が多数在籍する技術士というコミュニティの一員になれたため、そ

のメリットを最大限活かし、自己研鑽及び後輩育成に努めてまいりたいと思います。今後とも、ご指導の程よろしく願いいたします。

【技術士事務所のための知識・情報】 独立予定の有無にかかわらず、実践的で役立つ情報のコーナーです。

【開業技術士のIT 武装 徳永雅彦(情報工学部門)】

秘書も受付嬢も営業担当もない開業技術士(ほとんどの方がそうだと思いますが)において、手帳を忘れてスケジュールを確認できなかつたり、家に帰らないとメールが読めないということがあると、即機会損失に繋がります。今回は、私が実践しているIT ツール・サービスのビジネスへの活用方法について紹介します。

■いつでもコミュニケーション

- ・複数あるメールアドレスは、2 つのアドレス(ビジネス用、プライベート用)へ転送・集約し、常にスマートフォンから確認、返信できるように設定しています。
- ・FAX はクラウドサービス(※1)を利用し、ペーパーレスでの送受信が可能です。留守番電話機能も付属しているので、セールス電話に出る必要がなくなります。
- ・お客様やビジネスパートナーとの打合せは、ネット会議(※2)を利用し、移動時間を節約しています。相手が許せば、早朝や夜間のミーティングも可能です。

■どこでもオフィス

- ・スケジュールはオンラインスケジュールサービス(※3)を利用しています。時刻が迫ってきた際のアラーム機能や、現在地から目的地までのルート検索機能とも併用可能です。もちろん検索も可能です。
- ・スマートフォンには通話中に画面操作可能なアプリ(※4)をインストールしており、通話を保持しながらスケジュールの確認が可能です。
- ・文書ファイルはクラウドストレージ(ファイル保管サービス)(※5)に預けます。どこからでも内容を確認でき、文書の忘れ物がなくなります。ビジネスパートナーともファイル共有が可能です。名刺画像は自動的に OCR (テキスト抽出)処理される(※6)ので、氏名、会社名、住所等で常に検索できます。
- ・ホワイトボードはデジカメ(スマートフォンカメラ)で、紙媒体はスキャナ(※7)で電子ファイル化しています。
- ・銀行口座は、オンラインバンキングにより、口座の入出金確認・残高確認・振込手続きが 24 時間可能です。確定申告、納税は e-tax, el-tax により自宅から手続可能です。
- ・ノート PC と Wi-fi モバイルルータを持ち歩き、どこでも作業を行える環境を準備しています。ファーストフード店や図書館などでは電源コンセント付の机が用意されています。
- ・日中移動時間に余裕がある場合、コワーキングスペース(※8)を利用して作業を行うときもあります。1 日 1,000 円程度で静かな作業場所として利用可能です。

■誰とでもビジネス

- ・業務内容、業務実績はホームページや Facebook ページで公開しています(※9)。アクセス解析(※10)により状況を随時確認しています。セミナー・講習会等多くの方と名刺交換した後の数日間はアクセス数が増加しています。

IT ツール・サービスという道具を有効に活用することにより、間接業務を軽減し、お客様との面談や技術検討、仲間との情報交換の時間を増大させ、ビジネスチャンスの増加につなげていきたいと思っています。

- ※1 ペーパーレス FAX サービス(KDDI)
 - ※2 Skype(Microsoft)、ハングアウト(Google)
 - ※3 Google スケジュール(Google)
 - ※4 シンクコール(au)
 - ※5 Dropbox(Dropbox)、OneDrive(Microsoft)、Google ドキュメント(Google)
 - ※6 Evernote(Evernote)
 - ※7 ScanSnap SV600(富士通)
 - ※8 千葉コワーキングスペース 201(<http://chiba-coworking.com/>)
コワーキングスペース絆(<http://www.kizna.bz/coworking/>)
 - ※9 <http://www.kshare.jp>
<https://www.facebook.com/kshare.jp/>
 - ※10 Google Analytics(Google)
- (文中の製品名、サービス名は各社の登録商標です)

【アクティブ 45+】 仕事以外の分野で若者に負けない活発な活動をしている会員を紹介するコーナーです。

アクティブ 45+

この企画は仕事だけではなく、いろいろな活動をしている技術士を紹介するコーナーです。45歳は「青年委員会」の参加資格が無くなる年齢ですが、青年の心(時として少年の心)を持ち続けることは、仕事の質を高めるためにも重要なことです。

100kmマラソンに魅せられて

秋元英郎(化学部門)

私は子供のころから運動が苦手でした。特に嫌いだったのが長距離走でした。
そんな私が 100km 走るようになるのですから人生は何処で転機があるのかわかりません。

1983 年に入社した会社で社内の駅伝大会があって、新入社員は必ず走らされたこと。
結婚して妻に誘われて登った山でバテて悔しかったこと。
そのような出来事があって、少しずつランニングはしていました。

1 つ目の転機は、38 歳のとき、職場で勝浦の 10km マラソンに行ったとき、陸上部の人が、私の同期の女性に向かって、「半年有ればフルマラソンは走れる」と言っているのを聞いて、俺にもできると思って 3 ヶ月後の館山若潮マラソンに申し込んで完走できたこと。

そして 2 つ目の転機は 40 歳の時に同じ職場で 100km マラソンに出た人がいたとき。周りは「100km 走るなんて凄い」と言っていたのですが、私はどのくらい凄いか自分で走ってみようと思いエントリーして完走したことです。その頃には、フルマラソンでコンスタントに 3 時間半を切って、山岳レースや富士登山競争にも出場するようになっていたのでベースはできていたのです。



この初 100km ウルトラマラソンに完走したことが人生を変えたと言っても過言ではありません。その後はどっぴりと 100km マラソンに浸かり、2016 年まで 18 回完走しています。後 2 年で還暦ですが、60 歳までには 20 回の完走を達成したいと思っています。

さて、51 歳で独立して、56 歳で会社を立ち上げたのですが、つくづく経営者はマラソンをするべきだと感じています。

マラソンの効果としては以下のようなことが挙げられます。①体力と健康の増進、カッコいい体形の維持ができる、②大会に向けた継続的なトレーニングを通じて、「継続は力なり」を実感できる、③大会は 5km のレースから 100km を超える超長距離まであるので、誰でも成功体験を積むことができる、④5km のレースを完走したら、次は 10km といった具合に、次の目標が設定しやすい、⑤孤独に耐える経験ができる、⑥マラソンに取り組んでいる元気な経営者と仲良くなれる、⑦弱気の声に打ち勝つ力がつく

特に重要なのは⑦です。

マラソンで完走するためには、途中で棄権しないことです。

この当たり前のようなことを邪魔しているのが弱気の声。私のようにウルトラマラソンを何度も走っていてもレース中は終始弱気の声との対話です。弱気な声は自分の頭の後ろから、いろいろとささやいてきます。悪魔の声とも言われます。弱気な声がささやくのは、

「明日の仕事に影響するからこの辺でやめよう」

「ここまで走ってこれだけでも立派。ここでやめでも悔いはない」

「今回は練習不足だったから、次回完璧に準備して臨めはいい」

「そもそも俺に 100km なんて無理だったことがわかった」

「ここで無理してゴールまで走ったら後遺症が残るかもしれない」

このような声に同意してレースを止めるひとは多いのです。

この弱気な声を黙らせて、最後まで走り続ければ、完走は意外と簡単なことに気がつくのです。

経営をしていると、いろいろな弱気な声が襲ってきます。

そんなとき、自分の成功体験を思い出せば元気が出てきます。その成功体験としての 100km マラソンの完走が私を支えてきました。

【編集後記】

千葉県支部の会報もようやく第 4 号を発行することができました。三日坊主という言葉があるように、「3」まではできてその先まで続けることは段々と難しくなります。これからはできるだけ多くの会員様に記事を提供していただけるよう、会報の存在感を高めていきたいと考えています。

千葉県支部のホームページも併せてご活用いただきますようお願い申し上げます。

この会報についてご意見を chiba●engineer.or.jp までお寄せください。

(※迷惑メール防止のために「@」を「●」に換えて掲載しています。ご連絡の際は、「●」を「@」に書き換えて送信してください。)

(秋元英郎)



日本技術士会千葉県支部会報 Vol.3 (2016)

編集人 日本技術士会千葉県支部広報委員会

委員長 川畑真一

発行人 支部長 松井隆

発行日 2016年3月31日

発行所 公益社団法人 日本技術士会千葉県支部

〒260-0013 千葉市中央区中央 2-7-10 シャンボール千葉中央 2階 206号

[日本技術士会 千葉県支部の Web サイト](http://www.engineer.or.jp/c_shibu/chiba/)

http://www.engineer.or.jp/c_shibu/chiba/